

## ♪「春のセレナーデ」アコーディオン合同コンサートぶらり訪問記♪

日時 2011年5月8日(日)午後2~4時  
会場 うたごえ喫茶「ふる里」(八王子)

日頃、お互いの演奏を聴きあうことはとても大事なことだと言いつけている手前少々蒸し暑い一日でしたが、仲間のコンサートに出かけてみました。

タイトルに“合同”とあるように、うたごえ喫茶「ふる里」で練習しているアコーディオン合奏講座のメンバー、ふる里とつながりのある「アミーゴ」、アミーゴの仲間の「KRUG」、合奏講座主宰者井上氏の井上バンド、また歌手も加わりまさに合同コンサートでした。

第1部最初の演奏はアコ合奏講座による「満州の丘に立ちて」(写真:編曲、指揮は



井上正志氏) 難しい曲だと思うのですが曲の世界を表現しようと一生懸命な演奏が素敵です。

5番目の「ボカリーズ」ボカリーズという



言葉を知りませんが、発声練習のように母音であ〜あ〜あ…と

歌います。バックはピアノとアコーディオン2台(写真:歌は馬場幸子さん)どこか哀愁に満ちた旋律は不思議な世界でした。

「軍靴の響き」司会が“軍靴”とは「タンゴで使われるダンスの靴のこと」と言われ

たので、帰宅してから調べてみました。「ミロンガ」とは、アルゼンチン、ウルグワイ、ブラジル南部の音楽によって踊られるダンスの形式とあり納得しました。

軽快な4分の2拍子ですが、アクセント(○数字)は①・2・3・④・5・6・⑦・8・(たまに①・②・3・④・・・)と二拍目にもアクセントがつく、そんなエイトビートのリズムのようです。アコ4台ですが力強い演奏でした。

途中休憩があり、2部の始めは、ピアノ・ベース・アコのトリオで「オブ」ピオン」素敵な音色にしばし静かに聴き入っていました。

以降はクラシックで構成。「KRUG」によるアコーディオン五重奏。ドボルザーク/弦楽五重奏曲第3番(写真)団体名のクリュグ



の由来はシャンパンの名前で1本2万円するの

でまだ飲んだことは無いそうです。

井上クアルテットによるベートーヴェン/セレナーデ Op.25-1もそうですが一人ひとりの音がとてもしっかりしていてどれも素敵な演奏でした。

エンディングは「フェリシア」を全員で演奏(写真:アコ12台、ピアノ、ベース)で窮屈



そうでしたが、指揮なしでよく練習されているなと感心しました。(乙津:記)

